

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
 〒606-8501
 京都市左京区吉田本町
 075-753-5270
www.rakuyukai.org

コロナ禍の中で

関西支部長

則竹

博安

(昭和56年卒)



令和2年5月に関西支部長を拝命しました則竹です。今年には新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言発出があり、関西支部総会は書面開催を余儀なくされました。このため例年のような支部総会出席の皆様に向けた支部長拝命の挨拶もないまま、静かに新体制へ移行しました。

コロナ禍の元、関西支部の今年度通例行事は5月のゴルフ会中止につき、9月の異業種交流会も中止が決定されました。この巻頭言を作成している8月20日時点で



も日本全国のコロナ感染者数は12千人を超えており、終息は未だ遠しの感があります。11月に予定している家族見学会も開催を危ぶまれる事態です。

新型コロナウイルス感染症を防ぐと三密を避ければ、会員相互の親睦を図るといふ洛友会関西支部の行事が実施困難になるといふ異常な時代になりました。ワクチンが開発され一般的なものとなるまでは、自重せざるを得ないと考えるものです。

私は昭和56年に京都大学を卒業し、近畿日本鉄道(株)に入社しました。

最初の職場は愛知県、岐阜県、三重県の近鉄沿線に27か所あった鉄道用直流電力変電所を一箇所の電力指令所から遠隔集中制御化するプロジェクトチームでした。

この仕事は遠方にある変電所の

遮断器、断路器群を確実に投入開放できるシステムを組んだ上に、深夜の線路補修作業区間に対応した休送電状態を自動的に作るプログラムや事故時に遮断動作機器や動作継電器から事故内容を判定するプログラムを備えて、数十人の現場配置技術員が必要であった変電所群の運転を数人の指令員で行えるようにするプロジェクトでした。

現在では当たり前のシステムですが、当時は変電所の中で機器の動作音を聞いて働いていた技術員の皆さんに、動作音のないCRT越しに運転するという一大変化を受け入れてもらったのが大変でした。

昭和60年には東大阪生駒電鉄へ出向し、鉄道新線の建設工事に従事しました。今ではOsaka Metroの中央線と近畿日本鉄道のけいはんな線として相互乗入をしています。当時は大阪市交通局長田駅から近鉄の生駒駅まで、現在の半分の新線建設工事を行っていました。この新線は第三軌条方式で車両に電気を供給しており、近鉄の電路部門にとっては初めての方式でした。

建設当初この新線は東大阪生駒電鉄が運営する予定でしたので、少人数で運営できるように運転指令と電気指令を一本化し駅部門と

現場技術部門が共同して作業運営ができるよう設計されました。しかし開業直前に同社は近畿日本鉄道に吸収され、近鉄東大阪線として開業を迎えましたので、同室で指令業務をするにもかわらわず、指示命令系統は別となりまりました。初期計画のままであれば、縦割り組織のない会社になったのでしょうか。見てみたかったと思います。しかし東大阪生駒電鉄のままで経営的に成り立たなかった可能性が高く、これで良かったのでしょうか。

その後鉄道の保守現場を何年か担当し、現場保守区の職場長を経験した後、平成5年に近鉄資産の建物管理を担当する部署に配属されました。この時期、近鉄グループにおける不動産資産の管理体制が見直され、近鉄本体の中にビル管理の技術的側面を統括する部署が作られました。私はその部署の担当課長として、建物補修工事の必要性や新規開発ビルの設計施工に携わることとなり、不動産部門の計画立案者と共に働きました。

彼らからみたら、私の存在は技術的な面からあれこれ言うので、さぞ煙たかったのではないかと思います。この部門を経験させてもらったことで、石橋を叩くような鉄道技術とは異なる世界があることを体験しました。

私がこの世界から抜けた後、数年後に「あべのハルカス」の計画が立ち上がります。ハルカスプロジェクトに参加できなかったことは本当に残念なことです。

平成12年に資材部課長、17年に資材部長となり、近鉄の購入物、請負契約のほとんどを査定しました。しかし、一番印象に残っているのは資材部にあった倉庫業務をほとんどなくしたことです。鉄道部門でも、事故対応のためにあらゆる資材を手元に一定量置いておかなければならない、という固定観念を変革した時期にあたっており、これに合わせて倉庫を大幅に縮小したのです。

平成22年にはもう一度原点に戻るように、技術管理部長(鉄道電気)になりました。電気部門の技術的長期計画を立案するなど面白い仕事をさせていただきました。この時期に一番印象に残っているのは東日本大震災と原発事故、その後の原発停止の影響からきた電気料金の値上げに対応したことです。この時私は関西鉄道協会の電気分科委員会の代表についていましたので、臨時委員会を主催するなどして、各社の意思統一を図りました。

平成27年に出向してビルメンテナンス業の会社にお世話になりました。

今回、巻頭言を書くにあたり、過去を振り返ると、記憶に残っているのは新しく造り上げた仕事、従来のやり方を変革した仕事ばかりです。そして今の職場で私の下にいる社員たちに常々言っている「変化を恐れるな、変革を求めよ」という言葉は、自分の経験から出てきたものだと思います。

いま新型コロナウイルス感染症は人類社会に大きな変化を与えようとしています。「人」という字は人間と人間が支えあう様を表していると言われています。人間は集団、社会を作り、お互いを支えあっている存在です。いま言われている「三密を避ける」状況は、人間本来の在り様に逆らう状態に思えます。

しかし物理的な距離をとりながら、人々が寄り添う、そのための手段としてIoTやAIの進歩があるのだと思います。飲みすぎてしまうから問題だというZoom飲み会では、実際に会っていないのに存在を実感できます。

この進歩の行き着く先はバーチャルリアリティー空間での人間活動となるのではないのでしょうか。大昔に読んだハーロッドSF「巨人たちの星」(J・P・ホーガン)では何光年も離れた異星人とバーチャルリアリティー空間で会って、話して、共同作戦を遂行する

という場面がありました。気が付けば、SFの世界が実現するまで、あと一歩になっているのではないのでしょうか。

人が移動し、集い、その先で買い物をし、食事をし、娯楽を楽しむことで成り立ってきたこの社会が、移動せずとも、集まらずとも成り立つようになる。こんな激変が起こる。新型コロナウイルス感染症がその後押しをしている。恐ろしい変化に対応していかなければならないと思います。

洛友会会員のみなさんとの親睦をバーチャルで図る時代も間近でしょう。ですが、私にはやはりなじみません。当面は現実の世界で親睦を図りたいものです。そのためにも早く新型コロナウイルス感染症が終息することを願ってやみません。



会員寄稿

40年余りの研究生生活に
終止符を?

野村 保之

(昭52年卒・北陸支部)

【はじめに】

私は昭和52年3月電子工学科を卒業・昭和54年3月電子工学専攻修士課程を修了後、昭和60年3月名古屋大学大学院理学研究科博士課程を修了いたしました。京都大学電気系教室では、電子物理学講座(板谷研究室)に配属されていましたが、その時指導を受けていた百田弘先生が名古屋大学プラズマ研究所に移られたため、研究を継続するために名古屋大学プラズマ研究所に入学いたしました。昭和57年に名大を満了して、そのまま附属核融合研究企画情報センターの助手として採用されました。その後理論部門に移りました。が、研究的にはほぼ同じ内容のものを継続することが出来ました。

平成元年プラズマ研究所が核融合科学研究所に組織変更となり、私は附属理論・シミュレーション研究センター非線形シミュレーション部門に配属されました。研究的にはプラズマ理論を継続することが出来ました。それから縁あって、平成6年に福井工業高等専門学校

電子情報工学科に助教として迎えられ、教育という未経験の大切な業務に取り組むこととなりました。核融合研時代の共同研究者および大学院生との共同研究がありましたので、研究は継続することが出来ました。しばらくして、名大情報科学研究科との共同研究が開始され現在に至りました。

それでは、私の40年余りの研究生生活を振り返ってみたいと思います。

【板谷研究室時代】

卒業研究および修士論文の研究は、板谷研において百田助教の指導の下プラズマ・核融合の理論研究の基礎を学びました。

卒業研究では、ステラレータ・トルサトロン・ヘリオトロンといったヘリカル装置で形成される磁気面が対称性損失により破壊されることを定量的に評価しました。この研究は「ハミルトニアンカオス」に相当するものでしたが、上田皖亮先生の授業で非線形力学系について学んでいたため、すんなり入って行けました。

修士課程での研究は、「各種核融合燃料におけるプラズマパラメータの最適化」というもので、エネルギーバランスなどをコンシステントに計算し、核融合三重積(プラズマ密度・エネルギー閉じ込め時間・プラズマ温度の積)に

対するプラズマQ値(核融合パワーを入力パワーで割った値)を最大化することにより、最適プラズマ動作条件を明らかにするというものでした。

【名古屋大学プラズマ研究所時代】

名古屋大学プラズマ研究所においては、トカマクプラズマにおける不純物輸送の理論・シミュレーション研究を行い、また核融合炉概念設計ワーキンググループにおいて物理設計などを経験いたしました。ここでは、修士論文の経験が活かされました。この研究の発展として、具体的なプラズマ閉じ込め装置「磁場反転配位」を想定したアドバンス核融合炉の概念設定作業に加わりました。

そうこうするうちに、課程博士の6年目を迎えてしまい、そろそろ博士論文を考えようということになり、コンパクトトラスの傾斜不安定性に関する研究を行いました。この研究はプラズマが傾斜した場合に、内部のプラズマ配位が影響を受けないように表面電流が流れるという問題に帰着され、電磁気学の講義ノートを参考にして解決いたしました。

【核融合科学研究所時代】

平成元年5月に核融合科学研究所が発足し、そのまま附属理論・シミュレーション研究センターに配属されました。この時期、核融

合を離れて非線形保測写像におけるカオスの研究に動かしませんでした。まず手始めに行ったのが、低域混成波によるイオン加熱の写像解析で、速度空間の拡散係数を繰り返すみにより求めました。

次に、テキサス大核融合のホー トン教授から標準写像と呼ばれる非線形保測写像に相対論効果を考えたらどうなるかとの質問があり、相対論効果による様々な現象が解明されることになりました。同様に、ロシアのフィリップポフ教授がジョセフソン格子接合を写像解析しておられましたが、標準写像に直流バイアスがかかっている形として定式化されましたので、これまで培ってきた方法論を適用しました。

【福井工業高等専門学校時代】

平成6年に福井工業高等専門学校電子情報工学科に赴任しました。講義については最適化という分野でしたので修士時代の経験が生かされました。研究では、名古屋の大学院生との共同研究を続けることが出来ました。

さて学生との共同研究も一段落したところ、交通渋滞のリミットサイクル解析を進めていくことになり、ポアンカレの標準形変換に従って計算し結論を得ました。

その後、安定リミットサイクルの位置を求めるため「複スケール

展開による特異摂動法」を導入して計算を進め、ほぼ完成の見通しがつきました。残念ながら、今年に入ってからコロナ禍の影響で、打ち合わせもままならず現在に至っております。

【まとめ】

私の40年余りの研究生活を徒然なるままに振り返りました。興味ない方がほとんどと思われませんが、振り返ってみて京都大学電気系教室時代の授業や研究室での経験が、後々の研究に非常に役立っていたことを改めて実感しております。

日本の生産性を何とかしたい

竹原 司
(昭51年卒・東京支部)



コロナの第二波がピークを越えて、安倍さんの退任が発表された直後にこの原稿を書いています。私は修士で東芝に入ってから京都を離れて以来、43年、ずっと東京で過

ごしてきました。東芝で5年、ダム管理や河川管理などのシステム開発を担当したあと30歳の時、パソコンで動くCADソフトを作った独立しました。当時は既にパソコンブームで、ソフトバンクの孫さんやアスキーの西さんが有名な時代で、「今頃からパソコンのベンチャーなど遅すぎる！東芝に居た方がええよ」と随分慰留もいただきましたが、自分の作品を世に問うてみたいという若さの勢いで、そのまま辞めて一人で会社を興しました。何人かの友人に声を掛けましたが、皆、家庭を持ったところで集まらず、アパート一間で一人のスタートでした。

幸い、自分の趣味がラジコン飛行機の設計・製作であったため、自分が使いたいCADを作ったところ、これが2年ほどで、専門誌のユーザー評価No.1を獲得し、一気にパソコンCADのトップメーカーになりました。いま思っても、宝くじの当たったような幸運の連続でした。特にソフトバンクの孫さんには、いきなり面識もなく電話したただけなのに、いろいろ面倒みていただき、当時のパソコン関係の業界トップの方を次々と紹介いただきました。

以来37年、CADを皮切りにいろいろなソフトを開発して、大企業から中小企業・個人企業まで日本

の会社に使っていただき、社員と家族と販売店の皆さんの食いつけを稼がせてもらいました。孫さんが初代会長を務めた社団法人コンピュータソフトウェア協会(当時のパソコンソフトウェア協会)に入った縁で20年程前には、同協会の会長も二期務めさせていただきました。

ただ、この30数年を振り返るに、日本は「失われたXX年」と称される停滞と後退を繰り返し、昔日の面影は失われて、世界で最も進んだ少子高齢化の国となって100年後には消滅するかどうかという状況に直面しています。これに対して私達の世代は、働き盛りの期間がこの時期と重なっており、この状況に大して責任を感じない訳には行きません。

というところで、ここ数年、老骨に鞭打って、私財を投じて、日本企業の管理業務の全般をスマホとクラウドで置き換えるサービスを開発してきました。これらの開発は10年前では個人レベルでは不可能でしたが、現在のクラウド開発環境を使えば、地頭のいい手も動く人間が2、3人いれば、簡単に作れてしまいます。ソフトウェアビジネスの歴史は技術進化によるコストダウンと高性能化の繰り返しです。先行するサービスを最新技術で書き換え、コストパフォーマンス

マンスを数倍に改善してリプレース、あるいは、それまでの価格で導入できなかった市場を新たに開拓してきました。古くは、私を手掛けたCAD。40年前は3億円したシステムがパソコンで100万円になりました。最近では会計ソフト。フリーやマネーフォワードなどが、個人向けを月1000円で売り出して、たちまち市場を席捲。今や大企業市場にまで進出して下剋上の世界を見せつけています。会計のみならず、業務管理全般でこれをやってみよう、というのが私の目下のライフワークです。

サービスは原則ただで提供し、これくらいだったら払っていい、という価格をユーザー自身で決めてもらいます。利用効果の実感ユーザー毎に異なります。それに応じたコストにするという新発想です。まず、使ってもらおう、そして、使えると思うまで、ただでサポートしカスタマイズする。提供する側の体制もそれに賛同してくれるメンバーを揃えて、ユーザーが納得のいく費用として払ってくれた結果から配分していきます。シェアウェア的発想の拡大版です。

これらの体制を維持するには、固定の給与を支払う正社員の集まりでは困難です。しかし、いま、日本では年齢を問わず、フリーラ

ンスのエンジニアが増えており、また、企業も副業を奨励するなど、働き方が大きく変わりつつあります。企業側も社員の副業を介して自社にない新しいノウハウや技術の獲得、人脈の開拓を狙っているのです。コロナを契機とするリモートワークの拡大は、この傾向をさらに加速すると思われまます。これらの層のエンジニアやサポーターを集めれば、上記の収入を貢献に応じて配分する、という新しいビジネス組織の在り方が可能だと考えています。

現在、日本の一人当たりGDPは世界22位。英国より下です。さらに労働生産性は、先進国中最低です。スペインやギリシャよりも下なのです。この主たる原因はIT活用の遅れにあると言われています。1990年ころまでは世界トップレベルだった日本の生産性はそこから年々下がって現在に至りました。これは、IT技術の進歩と逆相関を示しています。日本はコストパフォーマンスが劇的に改善されたITを使いこなせず、30年前のIT活用レベルで停滞したため、この状況に至りました。今回のコロナ騒ぎで日本の公的ITシステムがいかにも遅れているのは全国民が目当たりしたところだと思います。この分野では、中国や台湾との差は開く一方なので

す。かつての「電子立国日本」は完全に失われてしまいました。この間、業界にいたものとして責任を感じずにはられません。

しかし、ピンチの後にはチャンスあります。労働人口の減少は否応なく生産性の向上を推進させ、全ての人がスマホを使いこなせる環境はタダに近い高度なITインフラとなり、クラウドのコストも低下する一方で、そこにコロナが追い打ちを掛けてリモートワークが普及する。この状況を活用して中小企業の業務を一気に「スマホ＋クラウド」で置き換えれば、生産性の劇的な向上は充分可能だと思われまます。スマホさえ使えば、説明など無しで使いこなせる業務システムを提供できれば、それも、その使用価値からユーザーがコストを決める供給が実現できれば、元々、教育レベルの高い国民から構成された日本は、再び生産性を世界トップレベルに高めることが出来るのではないかと。

現在、以上の目的でクラウド業務サービスを提供する「インフォグリーン株式会社」と人工知能技術の提供やコンサルティングを行う「株式会社エーアイスピリッツ」というベンチャー企業2社で、京大OB各氏の参加も得て、新しいITサービスの提供と普及のための活動を続けています。

人生100年時代、頭と身体が動く限りは日本の再生の向けて微力でも働き続けたいと願っています。ご興味ありましたら是非、2社のホームページをご覧ください。

ニユーノーマル新社会人

奥野 誠也

(平30年卒・中部支部)



つい半年前に大学院を卒業したばかりの新社会人です。6年間の京都での学生生活を経て、愛知の自動車メーカーにUターン就職しました。今、自動車産業は100年に一度の大変革期と言われているように、日々社内外の変化を感じています。テスラの時価総額がトヨタを超えたり、GAFAYスタートアップなどのIT系企業が自動運転技術の開発に注力したりと、競争の激化を感じて不安もありますが、電動化や自動運転、さらにはコネクティッドシティなど、未来のモビリティ社会へ貢献

できることにやりがいを感じています。

就職活動中は、君たちは東京オリンピック世代だと何度も言われていたのですが、今となればオリンピックも延期(中止?)になり、コロナ世代となってしまいました。この場を借りて振り返るほど社会人生活が始まってから時間が経っていませんが、特に書くことも思いつかず、入社してからの半年を簡単に振り返ることにします。コロナ禍での新入社員のリアルを感じて頂ければと思います。

コロナが拡大し始めたのは、卒業旅行の直前でした。いくつかの卒業旅行がキャンセルになり、不完全燃焼のまま学生生活を終えました。卒業式も中止となり、京都に予約していた宿に意味もなく泊まることに(下宿先はもう契約が切れていたのです)。やることもないので京都をぶらぶらしても、ほんの1週間前まで暮らしていた土地なので、なんの新鮮味も感じられず、複雑な気持ちで京都とお別れしました。

切り替えて社会人生活頑張ろう、と思った矢先に入社式も歓迎会も中止になり、入社初日の朝からいきなり研修が始まりました。コロナ拡大に伴って徐々に研修クラスの人数が減っていき、1か月で2回ほどクラス替えを経験しま

した。徐々に在宅での研修も増え、最初の頃は机も椅子もない寮の部屋での苦痛の在宅勤務でした。無印の「人をダメにするソファ」の上で眠気と闘いながら研修を受ける毎日、1日ってこんなに長いのかと、これから社会人生活やっていけるのか不安でした。例年は半年以上の研修の後に配属されますが、今年はいくつかの研修が延期となり、5月に配属されることになりました。制御関係の部署に配属され、現在は仕事を覚えることに必死です。右も左も分からない状態であたふたしていたら、洛友会会報の執筆依頼が届き、断り切れずに今に至ります。

最近では在宅勤務も増え、パソコン、モニター、机や椅子を購入しました。新入社員の手取りの給料1カ月分くらいを失いましたが、今後の社会情勢的にもリモートワークはずっと続くだろうと思いい、泣く泣く環境を整えました。今も無駄に大きいモニターで会報を書いていますが、画面の大きさと文章のクオリティは比例しませんね。ゆとり世代、スマホ世代の僕は文章を書くことがほとんど下手になってきている気がするのですが、最近本を読んだりした方がいいのかなと思いつつ、漫画ばかり読んでいます。全然関係ありませんが、ワンピースの作者が残り4〜5年

で連載終了すると発言したそうで、僕ら世代はラストの展開に胸を躍らせながらも、終わってしまおうのが寂しい気持ちでいっぱいです。ワンピースが連載開始されたのが僕が2歳の時なので、時の流れの速さを感じます。他にも最近では、

BU M P O F C H I C K E N ボーカルの藤原基央さんが結婚したり、サッカーの内田篤人選手が引退したりと、自分が歳をとってきたことを感じる出来事が多いです。BU M P に憧れてギターを弾き始め、友人とバンドを組んでいた中高生時代がつい最近のように感じます。あと、最近では自分より年下の人を尊敬することも多くなってきました。例えば藤井壮太棋士が棋聖と王位の二冠を達成しました。仕事から帰って藤井さんのニュースを見ると、自分の無能さに落ち込むこともあります。そもそも僕は勤務時間中ずっと椅子に座って仕事をしているだけでもつらいのに、一手打つのに何時間もかけ、自分より遥かに年上の方々を圧倒しているのには頭が上がりません。

つい先日、安倍総理が辞任を発表しました。今は総裁選の直前です。これを書いている途中に、菅官房長官が出馬を表明しました。新しい総裁が決まる前にはなんとか会報を書き終われそうです。ど

これまで書いていいのかわかりませんが、米中問題も激しくなる一方で、一国民としても、自動車メーカーの社員としても、今後の外交からは目が離せません。

最近になって、地球外生命体の発見を目的とした「マーズ2020」というNASAのプロジェクトの存在も知りました。車の形をした無人探査機を火星に送り出し、地表を削って地球に持ち帰るプロジェクトだそうです。うまくいけば約10年後に地球に帰還する予定みたいです。人間が火星に移住するの、そんなに遠くない未来かもしれません。小さい頃はNASAで働くのが夢だったので、やはり宇宙にはロマンがありますが、やはり宇宙にはロマンが見えますね。こういうニュースを見つめると、大手企業で自分ひとりがやれる仕事は小さいことだと感じてしまうこともあります。まずは今の仕事を一人前にこなせるように頑張ります。

書いている途中に思い出しましたが、そういえば僕は大学時代は体育会剣道部に所属していました。剣道は6歳の頃からやっていました。今は全くやらなくなりましたが、今は全くやらなくなつてしまったので、何か新しいスポーツでも始めねばと思い、実家から埃がかぶったゴルフクラブを引っ張り出してきました。当然ですが剣道とは握り方や振り方、力

の入れ方すべてが違うので難しいですね。大学の剣道部の後輩たちも今は活動自粛中だと聞いているので、少しでも早くコロナが収まって欲しいです。大学の部活だけでなく、甲子園やインターハイなども中止となり、自分たちは恵まれていたなと感じます。

途中からは思いついたことを書き並べてしまい、まとまりのない文章になってしまいました。稚拙な文章ではありますが、コロナ禍での新入社員の生活や、ゆとり世代の若者とのギャップを少しでも感じ取って頂ければ幸いです。それでは、コロナの少しでも早い収束と皆様のご健康を祈願して、結びとさせていただきます。

支部だより

令和2年度 洛友会 東京支部総会報告

令和2年6月28日(日)、東京支部総会を開催しました。例年は講演会及び懇親会と併せて学士会館で実施していましたが、本年は新型コロナウイルスの流行状況を鑑み、「①洛友会東京支部HP上で事前公開した資料に対してメールで意見を照会する」、「②

M i c r o s o f t 社 T e m a s

を使用したweb会議形式でコメント反映後の資料について報告・議論する」という2つの参加手段を併用して、東京支部総会のみ実施することとなりました。初めての試みではありましたが、事前公開資料確認形式では15名、当日のweb会議では18名が参加して議案についての意見を交わすことができ、盛会となりました。

【議事録】

支部総会は午後2時より司会の岩田総務幹事からweb会議進行方法について案内した後、伊東支部長による開会挨拶で始まりまし

まず、岩田総務幹事より令和元年度行事・活動報告、日比野会計幹事より決算報告が実施されました。活動報告では、昨年中に実施した講演会、院卒1年目歓迎会等の開催模様、新型コロナウイルスの影響により春の見学会、趣味の

会、拡大クラス会など2月以降に予定していた一部イベントが中止となったこと、及びTeams会議で実施した5月の幹部会の開催模様が報告され、承認されました。決算報告では、会計監査の結果、収支状況が適切と判断された旨が報告され、承認されました。

次に、令和2年度役員として、支部長 伊藤八大(S54)、副支部長 尾上誠蔵(S55)、監 事 北條博史(S56)、総務幹事 日比野勉(H13)、会計幹事 佐々木純(H16)、庶務幹事 増崎隆彦(H13)、若手交流会幹事

岩田元希(H12)の就任が承認されました。その後、伊東前支部長から退任のご挨拶、伊藤新支部長から就任のご挨拶がありました。

伊東前支部長からは、若手の参画促進を目指して昨年より開始した若手交流会が今後の活性化につながることを期待、コロナウイルス影響で2月以降のイベントが実施できず残念であったこと、新たな形態での幹事会開催にあたっての協力への感謝、今後への期待が述べられました。

伊藤新支部長からは、若手の参画を最重要課題として引き続き促進していくこと、コロナウイルスに負けることなく新しい技術を使ってイベント開催や情報展開を進めていきたいことを、今後の抱負として述べられました。

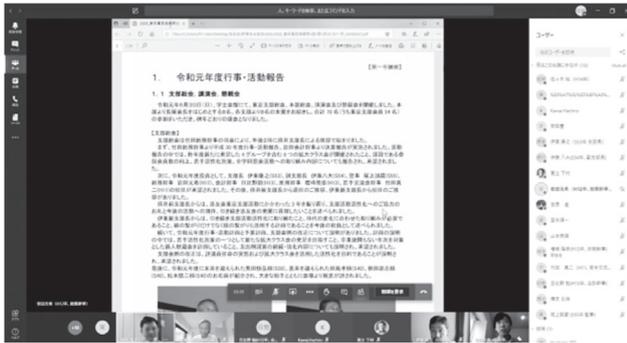
続いて、令和2年度行事・活動計画と予算計画について日比野新総務幹事より説明がありました。計画の説明の中では、今後の講演

会、見学会などのイベントについては今後の新型コロナウイルスの状況を踏まえ、実施方法を含めて検討中であること、引き続き若手活性化施策、支出削減策に継続して取り組むことが報告され、承認されました。参加者からは、集合形式でのイベント開催時の場合でもリモート参加を併用して欲しい旨の要望があり、幹事にて対応を検討する旨が回答されました。

また、活動計画と併せて、新型コロナウイルスにより困窮する学生を支援する「緊急学生支援プラン」への協力の呼び掛けが行われました。

最後に、令和2年度に米寿を迎えられた葉原耕平様(昭和30年卒)、岩原皓一様(昭和31年卒)、喜寿を迎えられた間宮馨様(昭和41年卒)、向井利典様(昭和41年卒)、柳沢忠洋様(昭和41年卒)のお名前が紹介され、拍手とともに会議参加者より祝意が評されました。

【報告】
会計幹事 佐々木 純(平14年卒)



Teams会議模様②



Teams会議模様①



伊藤新支部長



伊東前支部長

中部支部総会報告

令和2年度の中部支部総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場での開催を見送り、書面開催と致しました。令和元年度支部事業報告および決算報告、令和元年度会計監査報告、令和2年度支部行事案および予算案審議の各議案について、6月末から7月中旬まで洛友会中部支部のホームページ上に掲載し、会員の皆様からのご意見を募集致しました。7月25日にWEB開催した幹事会にて各議案が承認・決議されました。各支部行事の開催につきましては、当面は保留とし、新型コロナウイルスの終息が見えてきた段階で計画を再開する予定でございます。

来年度の中部支部総会は、例年通り6月中旬(6月12日(土))に名鉄グランドホテルでの開催を計画しております。名古屋駅周辺の再開計画により、総会会場として慣れ親しんだ名鉄グランドホテルでの開催は、来年が最後となる予定でございます。詳細については改めてご案内致しますので、ぜひ多くの皆さまのご参加をお願いします。

河野 弘樹(平8年卒) 記

四国支部総会報告

令和2年度の四国支部総会につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、集合開催を中止し、書面での開催としました。

本年度は、

- 令和元年度会務報告
- 令和2年度予算
- 支部役員改選(全員留任)
- 支部会則の一部改訂

について審議を行ない、いずれも承認されました。

その他の支部活動として、例年四国支部では、支部会員間の交流を深めることを目的に「秋の見学会」を開催しておりますが、こちらも本年は中止しております。

来年の支部活動は、今年の分まで活発にできるよう、事務局一同今から知恵を絞りたいと考えておりますので、会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております！

美馬 圭介(平21年卒) 記

事務局だより

**京都大学創立125周年
記念事業について**

京都大学はご承知の通り明治30年(1897年)6月に創設され、あと2年後の2022年6月18日には創立125周年を迎えることとなります。これを記念して、京都大学では記念事業を開始しております。

ウェブ上では、「創立125周年記念事業特設サイト」を立ち上げ、創立から現在に至る「京都大学のあゆみ」や、「創立125周年に寄せて」として各界でご活躍の同窓生からのメッセージを紹介しております。また、記念事業の「お知らせ・イベント情報」も掲載しております。京都大学ホームページのトップからリンクされておりますので、是非ともご覧ください。

【ご寄付のお願い】

京都大学が創立125周年を迎えるにあたり、「京大力、新輝点」というスローガンを制定し、「京都大学基金」Webなどを通じて125周年記念事業に向けたご支援のお願いをしております。

www.kikin.kyoto-u.ac.jp/about/

皆様からのご支援は、人材育成のための資金として、直接活用させていただくほか、運用のための原資としてプールし、その運用益を基礎研究等に充当します。ご支援をいただきましたら幸いに存じます。

創立125周年記念事業特設サイト

125th.kyoto-u.ac.jp/statement/

「京都大学基金」

www.kikin.kyoto-u.ac.jp/about/



**洛友会ホームページ
【ご紹介】**

洛友会事務局長 和田修己

洛友会ホームページでは、洛友会会報のバックナンバーの公開のほか、各種資料提供や会員サービスなどを行っております。そのいくつかをご紹介します。

**洛友会ホームページ【資料庫】
京都大学電気系教室の
歴史・資料について**

以前からご要望がありました電気系教室の歴史や研究室の変遷についての資料を整備し、下記の内容を、洛友会ホームページで公開しております。

www.rakuyukai.org/blog/2020/01/20/電気系教室の歴史・資料について

・電気教室百周年記念誌(平成10年9月刊行)第3章・第4章

・電気系教室教授(教室創設以来の教授の就任時期、担当講座)

2018年7月現在

・電気系教室および関連部門教官・教員名簿

・電気系教室研究室系統図(基幹分野のみ)1987-1995・1961-2018

このうち教授一覧については、今後、洛友会名簿にも掲載を予定しております

また「教官・教員名簿」「電気系教室研究室系統図」については、山本高至先生、佐藤亨先生らのご

努力で系譜としてまとめたもので、以前からよくお尋ねのあった

「私の出身の研究室は、いまはどうなっているのか」というご質問

に答えるものになっていくかと思

います。是非ともPDFをダウンロードしてご利用ください。

なお、これらの資料については出来る限り正確を期していますが、誤りもあるかと思ひます。お気づきの点などありましたら事務局までお知らせいただけましたら幸いです。

**洛友会ホームページ【資料庫】
洛友会の歌**

松田長三郎先生(大6年卒)作
詞作曲の洛友会の歌の楽譜と、演奏音源(m p 3、歌ありおよび伴奏のみ)を公開しております。

洛友会の歌については、洛友会報・第265号(令1年7月15日)の寄稿記事「洛友会の歌(四十周年)」と関西支部「西台悼様(昭32年卒)」に経緯をご紹介いただいております。洛友会の歌は、広く周知し、歌い続ける」として支部大会でも歌い継がれております。ご利用いただければ幸いです。

洛友会ホームページ【同窓会ブログ】

現在はあまり活用されておませんが、年度ごとのブログなどを開設いただけます。ページの作成をご希望の場合は、事務局までご連絡ください。

(洛友会事務局：
e-rakuyu@kuee.kyoto-u.ac.jp)

**京都大学工学系同窓会
連絡会について(報告)**

洛友会事務局長 和田修己

京都大学工学部では、工学系の各同窓会を連携する会として、「京都大学工学系同窓会連絡会」を組織し、工学部卒業生及び京都大学大学院各研究科研究室内の修了生を支援することを目的として活動しています。(hpalumni.kyoto-u.ac.jp/about/competefaculty-dept/011.html)

同連絡会の会長・事務局長は、工学系の同窓会の回り持ちとなっており、本年より2年間は洛友会の担当となります。本年10月3日開催の同・連絡会総会において下記の通り承認されましたので、ご報告いたします。なお、これまで委員としてご協力をいただきました藤田静雄先生には、深く感謝申し上げます。

会長・竹原壽良(洛友会、元(株)

JR西日本テクノス代表取締役

社長)

副会長・大嶋正裕(工学部長・工

学研究科長)

事務局長・和田修己(工学研究科

(洛友会)、工学研究科教授

同窓会側運営委員(洛友会)

野田進(洛友会、工学研究科教

授)

CUE 44号発行のお知らせ

cue (電気関係教室技術情報誌) 44号が発行されました。目次は以下の通りです。冊子の配布はありませんので、HPよりダウンロードしてご覧下さい。

http://www.seet.kyoto-u.ac.jp/ja/information/cue/

巻頭言

荒木 光彦

「工学を臨床につなぐ人達」

大学の研究・動向

先端電子材料分野

「酸化物半導体のエレクトロニクス・オプティクス」

産業界の技術動向

手島 由裕

「マツダの目指すMBDと車両電装システム開発での適用事例」

研究室紹介

修士論文テーマ紹介

高校生のページ

橋口 浩之、矢吹 正教

「電波・光・音波を利用した大気のリモートセンシング」

学生の声

坂田 諒

兒島清志朗

教室通信

和田 修己

「困ったときの保健室・ストレス・コミュニケーション・体調不良」

賛助会員の声

國師 渡

「大学との共同研究と企業としての研究開発の取り組み」

編集後記

令和2年度懇話会開催のご案内

在校生(学生会員)と卒業生(正会員)の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励するために、洛友会と電気系教室との共催で懇話会を毎年開催しています。今年度は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンライン(Zoom)にて開催いたしますので、Eメールにて参加登録をお願いします。ご参加の方には後日、ZoomのURLをお知らせいたします。

記

日時… 令和2年11月13日(金) 15時00分～17時00分
会場… Zoom

プログラム(予定)...

15時00分 開会挨拶

電気電子工学科学科長 黒橋禎夫 教授

15時05分 「電磁波の活用」

「電気工学から電子工学、そして情報化時代へ」

松本 紘 先生(京大名誉教授)

休憩

15時50分 「誰もが分かり合えるユニバーサルコミュニケーションの実現に向けた取り組み」

内元 清貴 氏(国立研究開発法人情報通信研究機構・平6年卒)

16時25分 「ソニーの半導体レーザの現状と今後の展開」

浅野 竹春 氏(ソニーセミコンダクタソリューションズ・平3年卒)

連絡先… 電気電子工学科事務室

電話… 075-753-5273

FAX… 075-753-5271

Eメール… konwa-kai@kuee.kyoto-u.ac.jp

訃報

昭23	森田健一郎	2	6	16
昭28	塩路 孝夫	1	11	14
昭29	井上 和夫	2	8	4
昭30	高橋 義造	2	6	3
昭35	上田 裕	2	6	13
昭36	加藤 宏治	2	1	16
昭40	徳田 政昭	2	3	25
昭40	仁田 昌二	31	4	13
昭45	池上 芳郎	2	5	3

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

